

広報

中部の森林



写真：「開田方面から望む木曾御嶽山」(木曾署管内)

私の森語り「野生鳥獣の命を通し、自然環境との共存
共栄を目指す」信州富士見高原ファーム 戸井口 裕貴

特集

- ・令和5年度治山・林道工事コンクール表彰式
- ・森林・林業・森林土木に関するWeb勉強会

各地からの便り

- ・森林ボランティア団体が素材生産現場を見学
- ・【能登半島地震】山地災害緊急展開チームへの職員派遣 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林



林野庁中部森林管理局



2024/No.240

令和五年度 治山・林道工事 コンクール表彰式

【治山課・森林整備課】

三月七日、中部森林管理局において「令和五年度治山・林道工事コンクール表彰式」を行いました。このコンクールは、国有林野の公益的機能を高度に発揮させ、林業の成長産業化等の推進に貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、工事における計画、設計・施工の適正化及び技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に実施しています。

今回のコンクールでは、森林管理署等より推薦された令和四年度の工事が審査対象となり、有識者を含めた審査委員会において、林野庁長官賞四件、中部森林管理局長賞十二件の工事が選定されました。

また、林野庁長官賞を受賞した工事の主任技術者、現場代理人及び監督職員の九名の方が中部森林管理局長賞を受賞されました。



受賞者と関係者全員による記念撮影

表彰式では、井口森林整備部長から審査報告を行った後、今泉局長より賞状が授与されました。なお、長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち二月十五日、林野庁において行われました。事業者の皆様方には、今後とも技術の研鑽、創意工夫等により、優良で模範となる工事を実施いただくことを期待しています。

林野庁長官賞受賞工事



トヤノ沢復旧治山工事 施工者 奥田工業(株)



北御所川復旧治山工事 施工者 (株)吉澤組



一ノ瀬林道災害復旧工事 施工者 (株)梅田組



大門本沢林業専用道新設ほか工事 施工者 (株)羽田組

治山・林道工事コンクール賞状授与者名

1. 中部森林管理局長賞(賞状授与) 治山8社 林道4社

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	富山	スゴ谷下流復旧治山工事	新栄建設(株)	代表取締役社長	高平 公輔
治山	富山	北又谷復旧治山工事	伊藤建設(株)	代表取締役	伊藤 甚宰
治山	中信	蒲原沢3復旧治山工事	(株)笠原建設	代表取締役	鈴木 秀城
治山	東信	板橋川復旧治山工事	木下建工(株)	代表取締役	木下 修
治山	南信	キツカケ沢復旧治山工事	スワテック建設(株)	代表取締役	柿澤 充
治山	伊那谷	鳶ヶ巣復旧治山工事	大協建設(株)	代表取締役	小澤 さとる
治山	岐阜	御厩野(鞍掛川)復旧治山工事	(株)梅田組	代表取締役	梅田 桂司
治山	東濃	鎗ヶ入谷(本流)復旧治山工事	(株)佐々木工務店	代表取締役	佐々木典博
林道	富山	三本松割林業専用道新設ほか1工事	(有)境工業所	代表取締役	境 やすし
林道	南信	三峰川林道災害復旧工事	宮下建設(株)	代表取締役	宮下 金俊
林道	飛騨	松谷(山中峠)林業専用道新設工事	橋本建設(株)	代表取締役	橋本 伸一
林道	東濃	白川付知林道改良工事	(株)中島工務店	代表取締役	中島 のりお

2. 中部森林管理局長賞(賞状授与) (林野庁長官賞受賞者の現場代理人等) 9名

工事別	署所名	工 事 名	現場代理人	主任技術者	監督職員
治山	伊那谷	北御所川復旧治山工事	青木 広司	青木 広司	大西 正昭
治山	木曽	トヤノ沢復旧治山工事	森下 恭兵	むぎしま かずき	佐々木竜也
林道	東信	大門本沢林業専用道新設ほか工事	こやま ゆうき	こやま ゆうき	俣野 あつき
林道	木曽	一ノ瀬林道災害復旧工事	うめだ とおる	うめだ とおる	きゅうご かずき

現場代理人・主任技術者及び監理技術者が兼務している場合は、上位の役職者を表彰します。

3. 林野庁長官賞 4社(2月15日林野庁にて表彰済み)

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	伊那谷	北御所川復旧治山工事	(株)吉澤組	代表取締役	吉澤 利文
治山	木曽	トヤノ沢復旧治山工事	奥田工業(株)	代表取締役	奥田 かずひこ
林道	東信	大門本沢林業専用道新設ほか工事	(株)羽田組	代表取締役	さとう きみあき
林道	木曽	一ノ瀬林道災害復旧工事	(株)梅田組	代表取締役	うめだ けいし

そのような中、民有林関係者は、技術を習得する機会が少なく、また、普段の業務の中、講習会等に参加し知識や情報を習得するのは簡単ではありません。

近年目覚ましい発展を遂げている地理空間情報やICT等の先端技術を活用し、森林施業の効率化・省力化を推進する取組が必要となつていきます。この取組を効果的に進めるためには、先端技術に関する知識の習得が必要となり、あわせて、人材の育成も重要となります。



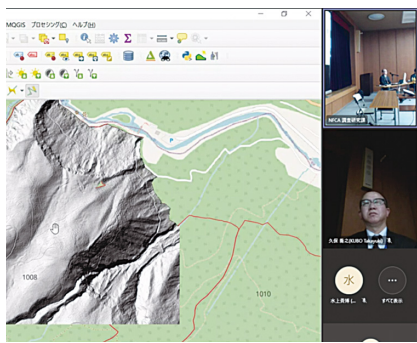
民有林関係者を対象にした
森林・林業・森林土木に
関するWeb勉強会

現場で活用
できる知識や
情報・技術

このため、中部森林管理局では、民有林関係者が普段の仕事の終わる時間帯に気軽に参加でき、先端技術に関する知識や情報を習得できるWeb勉強会を定期的に開催しています。

勉強会への参加は、当局Webサイトを通じて募集しており、これまで十一回開催し、延べ二百十六名の企業・団体に所属する民有林関係者の参加がありました。

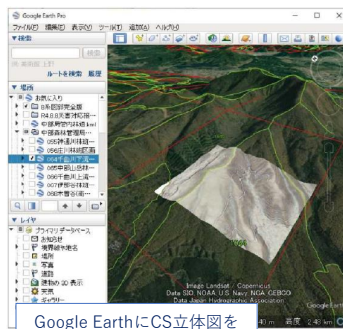
参加者からは、「QGISは、覚えるのにとっても苦戦しており、このような勉強会を開催していただき大変ありがたい」「現場から早めに戻り参加可能なので、とても参加しやすい時間設定である」「自分のスマホにCS立体図を入れて現場の確認に活用できた」「通常の



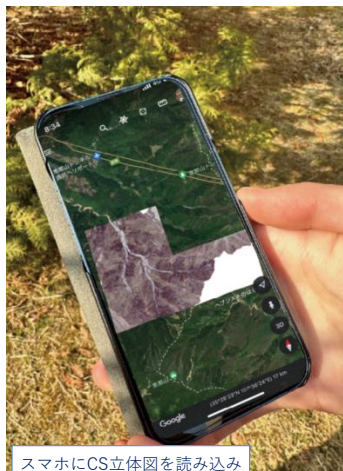
Web勉強会の様子

【勉強会の内容】

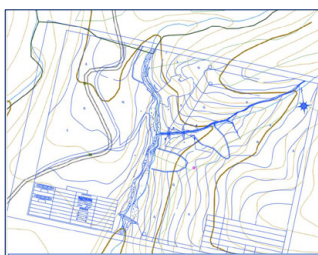
- 1時限目 : Google Earth を活用しよう
- 2時限目 : QGIS を活用しよう
- 3時限目 : 自分のスマホを活用しよう
- 4時限目 : QGIS を活用しよう
- 5時限目 : Google Earth を活用しよう
- 6時限目 : QGIS を活用した図面の作成
- 7時限目 : 属性を活用した様々な分析
- 9時限目 : Google Earth Webを活用しよう
- 8時限目 : QGISを活用しよう
- 10時限目 : 自分のスマホを活用しよう
- 11時限目 : QGISを活用しよう



Google EarthにCS立体図を読み込み体的に確認



スマホにCS立体図を読み込み現場で活用



QGISにCAD図面を読み込み位置を確認。

講習会に比べ参加しやすく、急用の場合には業務を優先できる環境はありがたい」といった感想が寄せられるなど、知識や技術を習得する場の提供や参加しやすい開催方法はとても好評でした。

今後も、多くの民有林関係者に、現場で活用できる知識や情報・技術を発信していきます。

《各地からの便り》

森林ボランティア団体が
素材生産現場を見学

【愛知県森林管理事務所・名古屋事務所】

十二月十一日、「(一社)日本山岳会東海支部 猿投の森づくりの会」のメンバー六名が、愛知県北設楽郡設楽町段戸国有林において、素材生産現場を見学されました。

猿投の森づくりの会は、愛知県県有林や愛知県瀬戸市にある東大演習林をフィールドに、チェーンソーを使った本格的な森林整備をされている森林ボランティア団体です。

九月十二日に熱田白鳥の歴史館において勉強会を開催した際、「今後の森林整備活動の参考にするため、実際に生産事業の現場を見学したい」との要請を受け、愛知事務所の森林整備事業の受注者である(株)緑豊の澤田社長や従業員の方のご協力により、見学の機会を設けました。

事業地では、スイングヤーダによる集材とプロセッサ造材など高性能林業機械の実演のほか、近隣



の現場において生産された一〇〇年生を超える優良材「段戸SAN」の丸太等も見学されました。意見交換では、安全な伐倒、林業機械のメンテナンス、雇用や人材育成の課題など、多岐にわたる質問があり、事業者とボランティアで立場は違いますが、森林・林業への想いは同じであり、予定時間を超えて話が弾みました。

後日、参加された皆様から、林業機械の迫力、活き活きと働く若者、伐採箇所で広葉樹を残す配慮、段戸SANの木目の美しさ等への感心と対応への感謝が綴られた感想文をいただきました。

今後も、各団体等からの要請に応え、現地見学等を通じ国有林の取組をPRしてまいります。



作業現場の説明を受ける参加者

冬季の安全講習会を実施

【富山森林管理署】

一月十七日、運転経験の浅い若手職員五名を対象に、市内の自動車学校において、冬季における安全運転講習を行いました。

はじめに、自動車学校の教官より、積雪・凍結路での安全走行、交通安全全般について講話を受けた後、二班に分かれて、実技による講習を行いました。シミュレーターによる運転操作では、雪上でのカーブ走行や、降雪時における視界など、悪条件下での運転における事故のリスクを体感しました。更に、教習車を使用し急ブレーキ時の制動距離や、タイヤチェー



シミュレーターによる雪上運転

ンの脱着の実技を行いました。日ごろから、安全運転に徹している職員も、雪道走行での危険な体験をすることにより、身をもって冬季の安全運転について学ぶことができました。

また、二月五日には、ロータリー式除雪機の操作講習会を行い、使用したことのない職員など、四名が参加しました。講師は経験豊富な職員が担当し、事故防止の動画を視聴したあと、除雪機を使用し、操作方法、安全対策、注意点等について実習を行いました。初めて使用する職員は、不慣れながらも雪を飛ばす場所やオーガの高さなど細心の注意を払いながら作業を行い、小雪が舞う寒い中でしたが、有意義な講習会となりました。



指導を受けながらの除雪作業

王滝村へ「村内図」を寄贈

【木曽森林管理署】

一月二十二日、木曽郡王滝村役場へ「王滝村・村内図」を寄贈しました。

これは、以前、王滝村の越原村長を表敬訪問した際、村長室に揭示されていた村内図が古く、青基調の色合いや少ない凡例により見にくいところがあると話題に上がったため、森林事務所において、新たに作成したものです。

図面には、民有林・国有林・林班界・村道・林道・水系等を入れるとともに、長野県における王滝村の位置や御嶽山頂、県境の峠、ダム湖等を明示することで、豊かな自然やランドマークが一目で分かるよう工夫しました。

王滝村は総面積の約九十六パーセントを森林が占め（うち国有林は約八十七パーセント）、良質な木曽ヒノキをはじめ木曽五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）の産地として知られています。

越原村長からは、「緑基調の色



村長室に掲示された図面と越原村長



説明をする森林事務所職員

合いとなり、森林に囲まれた村であることがよく分かるようになった「村の説明がしやすくなり、来客時には都度活用していきたい」との、感謝の言葉をいただきました。今後とも地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

岐阜県森林・林業関係合同発表会で二ホンジカ対策について発表

【岐阜森林管理署】

二月二日に関市のわかくさ・プラザ多目的ホールにおいて岐阜県森林・林業関係合同発表会が開催されました。

本発表会は、岐阜県内の森林・林業に携わる関係者が一堂に会し、日頃の林業普及活動や試験・課題研究等に関する実績ならびに成果の発表を通じて、積極的な知識・技術の相互研鑽、交流、連携を深めるとともに、広く一般県民に対して最新の森林・林業に関する話題を直接提供することにより、岐阜県における森林・林業の発展に寄与することを目的に毎年開催しています。

発表は、林業普及活動、地域森林監理士の活動報告、森林研究所の研究成果、森林文化アカデミーや郡上高校の学生の発表など多岐にわたり、有意義な発表会となりました。

県内の森林管理署等からも毎年交代で一課題発表しており、今回



当署の二ホンジカ対策について発表する様子

は「新たなシカの捕獲方法について」と題し、当署が取り組んでいる保護（守り）と捕獲（攻め）の二ホンジカ対策について説明するとともに、昨年八月二十八日に当署管内の七宗国有林において現地検討会を実施した「小林式誘引捕獲法」を紹介しました。

今後とも、関係者等との交流や連携を図り、広く情報を提供できるように積極的に発表会に参加していきたいと考えています。

木と建築で創造する共生社会実践
研究会のセミナーに参加

【木曽森林管理署・東濃森林管理署】

二月二日に東濃署管内、その翌日に木曽署管内において、木と建築で創造する共生社会実践研究会東海支部主催のセミナーが開催され、当地域の国有林や林業の歴史、木曽悠久の森の取組、管内で生育した八十年生以上の良質な人工林ヒノキをブランド化（ブランド化）（高木）（木曽）（ヒノキ）し、市場や建築会社の方から高い評価を受けていることなどについて紹介しました。

平成二十六年に設立された同研究会は、「木の学校づくり、木の建築づくり」を核としながら、その切り口にとどまらず、持続可能な森林資源の活用を通じ、地域に根差す建築・産業・文化の継承と発展を図り、また、木の建築と木質エネルギーを結びつけ、自立的な循環型地域づくりを進めることにより、共生社会の理念の実現に向けて総合的・実践的に活動することを目的とされています。本セミナーでは、今年度開校した中津



木曽署にて国有林材のブランド化について紹介

川市「福岡小学校」の木の学校づくり、「木曽町役場」の木造新庁舎の設計施工、南木曽町「勝野木材」の高付加価値化した建築材製造について現地見学され、各署等の職員も見学や意見交換の場に参加させていただき、木造建築のデザインや木材利用に触れる貴重な機会となりました。今後とも木材に関係する様々な立場の方と情報を共有するなど、地域の大切な資源である木材の供給や森林の管理をしていきたいと考えています。

ふるさとの香り
付知南小学校森林教室

【東濃森林管理署】

二月五日、中津川市立付知南小学校五年生より、「この地域の産業である林業の話を当署の下付知貯木土場で聞きたい」との依頼があり、森林教室を行いました。

付知南小学校のみどりの少年団は、昨年開催された「全国緑の少年団活動発表大会（国土緑化推進機構主催）」で最高賞となる「みどりの奨励賞」を授与されるなど、普段より森林にかかわる活動を積極的に行っており、昨春秋には国有林内での森林教室も行っています。その時には、森林の働きを中心とした話をしましたので、今回は付知の林業の歴史を中心とした話をしました。

古くから、当地域は良質な「木曾ヒノキ」の産地で、産出された木材が全国各地のお城や神社・仏閣などの建設に用いられてきたこと、多くの木材をどのように伐り出して運んでいたのか、また、児童が疑問に思っていた下付知土場



伊勢神宮用のヒノキの香り確かめる様子
（※貯木土場内は原則保安帽着用ですが、今回は重機等も稼働しておらず、児童の安全が十分確保できたことから特別に着用していません）

は何のために作られたのか、などについて説明しました。ちょうど土場には伊勢神宮用の注文材が並んでいたため、雪が降る中でも、木材に触れ、香りをかいても良かったところ、児童からは「大きな」「いい香りがする」などの感想がありました。森林教室の締めくくりに児童へ「付知の人にとって、この香りが故郷の香りのひとつでもあることを忘れないで」と伝え、引率する先生から「ヒノキが故郷の香りなんて素敵ですね」との感想がありました。故郷の森林を大切に、守り育てる心も育つことを願っています。

本講座は、名古屋の産業史を江戸から明治時代の「木」「鉄」「土」を視点に、それぞれの産業の発展と、それらの技術が今の名古屋の産業に与えた影響などの歴史を知ることに、地元への愛着を深めることを目的に実施されています。

今回は、江戸時代から木材の集散地であり、名古屋の木材産業に影響を与えた白鳥貯木場の歴史を学ぶことを目的に開催され、当所職員から「名古屋の木材産業発祥の地 白鳥貯木場」と題して、歴史的な堀川との関わりや木曾地域からの木材の流送等について説明を行いました。

〈なごや学〉講座で
名古屋の木材産業史を説明

【名古屋事務所】

二月十五日、名古屋市西生涯学習センター主催の四回にわたる講座「なごや学」名古屋産業史「木」「鉄」「土」から学ぶ」のうちの第二回目『名古屋産業史』「木」が二十三名の参加のもと、熱田白鳥の歴史館において開催されました。



興味深く木材産業の歴史を学ぶ受講者のみなさん

参加された受講者からは、「白鳥貯木場の長い歴史の深さがよく理解でき興味深かった」「名古屋の町づくりはこの木材がなければできなかつた」「孫にも一度勉強しよう伝えたい」など心強い感想が寄せられました。

今後も、各団体等からの要請に応え、熱田白鳥の歴史を通じて森林・林業についてPRしていきたいと考えています。



躯体のみとなった森林事務所

【富山森林管理署】

昨年九月より修繕工事を進めていました当署の立山森林事務所が一月に完成し、これまで最寄りの常願寺川治山事業所において実施していた森林官業務を、新しくなった庁舎で七カ月ぶりに再開しました。

中新川郡立山町芦峯寺なかにしかわがんでやままちあしくらじに所在する当事務所は、昭和四十九年に建築され、経年による老朽化も著しく寒冷地仕様でもなかったことから、かねてより大規模な改修を要望していました。

立山森林事務所が
完成しました



看板を設置する署長と森林官

立山の麓にある芦峯寺で地域の皆様とともに半世紀を過ごしてきた当事務所は、基礎、柱、梁、屋根を残して解体した後、新たに鉄筋コンクリート造の布基礎へと補強し、火打ちや筋交いで躯体の耐震強度を高め、床下・壁内・天井裏に断熱材を配置するとともに、換気システムも設置することで、改修前より快適な事務室と宿舍環境を構築しました。

多くの登山者や観光客が訪れる立山黒部アルペンルートや北アルプス立山連峰の国有林を管理する当事務所は、これまでも山小屋関係者や行政機関等との情報交換の拠点として活用されてきましたが、この改修を契機に、今まで以上に地元から愛され頼られる森林事務所となることを期待しています。